

機関番号：20104

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21890203

研究課題名（和文）北海道における生後1ヶ月児をもつ母親の乳幼児突然死症候群に対する知識とその要因

研究課題名（英文） Findings on potential causes and awareness levels of sudden infant death syndrome among mothers of one-month old infants.

研究代表者

市川 正人 (ITIKAWA MASATO)

名寄市立大学・保健福祉学部・講師

研究者番号：20513873

研究成果の概要（和文）：北海道において生後1ヶ月児をもつ母親に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)の知識および関連要因を明らかにすることを目的とした。結果より、疾患名は母親に広く普及していることが推測された。一方、SIDSのリスク因子に関する知識は、「うつぶせ寝」を回答した母親は59.5%、「喫煙」59.8%、「非母乳哺育」14.0%であり、十分に普及していない結果が示された。また、厚生労働省のSIDS対策強化月間については、94.7%の母親が「知らない」と回答しており、全く普及していないことが示唆された。

研究成果の概要（英文）：This study aims to clarify awareness of SIDS and its potential causes among mothers of one-month old infants. Whereas the collected data indicates that the name of the syndrome is widely known among mothers, knowledge of SIDS risk factors was shown to be insufficient, with 59.5% of mothers responding that "sleeping in a prone position", 59.8% that "smoking", and 14.0% that "non-breastfeeding" were potential causes of SIDS. Additionally, 94.7% of mothers "did not know" about the SIDS Awareness Month promoted by the Ministry of Health, Labour and Welfare, which suggests that awareness of this campaign has not increased at all.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	810,000	243,000	1,053,000
2010年度	730,000	219,000	949,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,540,000	462,000	2,002,000

研究分野：小児看護学

科研費の分科・細目：医歯薬学・生涯発達看護学

キーワード：乳幼児突然死症候群、保健衛生知識、育児、母親、看護、北海道

1. 研究開始当初の背景

全国の乳幼児突然死症候群(SIDS)の死亡率は、1997年時点では出生10万対41.6であったが、2007年には同16.2低下している。その背景として、厚生労働省を中心とした知識予防キャンペーンの効果があるものと推測される。一方、北海道においては予防キャンペーン開始後もSIDS死亡率は低下せず、

2007年現在同31.3と全国平均の約2倍と高率である。北海道のSIDS発症率が減少しない理由は定かではないが、全国的には予防知識の普及により死亡率が減少していることから、北海道においては十分に予防知識が普及していないことが一因と考えられた。SIDSは生後1～4ヶ月児が全体の約半数を占める疾患であることから、生後1か月以内の児を

もつ母親の SIDS に対する知識とその関連要因を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、SIDS の発症率が全国平均と比較して 2 倍以上と高率である北海道において、生後 1 ヶ月児をもつ母親の SIDS に対する知識とその関連要因を明らかにすることである。

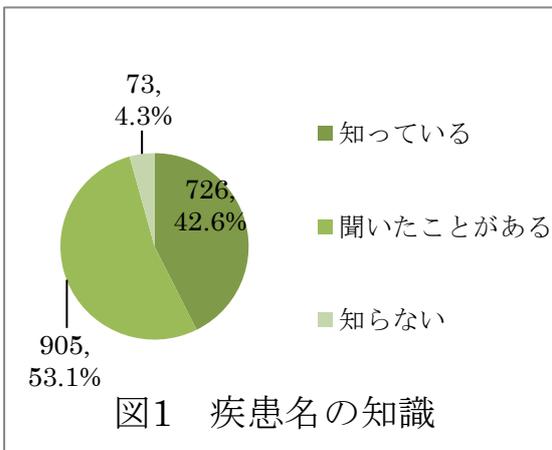
3. 研究の方法

北海道内の全 14 支庁中 11 支庁、32 施設において調査を行った。対象者は生後 1 ヶ月児をもつ母親である。対象者には生後 1 ヶ月健診にて質問紙を配布、郵送にて回収した。配布期間は 2009 年 11 月より 5 ヶ月間。質問項目は疾患名およびリスク因子に関する知識、SIDS 対策強化月間の知識、実施の育児行動、日ごろ活用している育児情報源および属性である。調査の実施に際し倫理的配慮として、名寄市立大学倫理委員会及び研究対象施設の倫理委員会の承認を得た。対象者には文書にて説明を行い、研究協力及び結果公表の同意を得た。

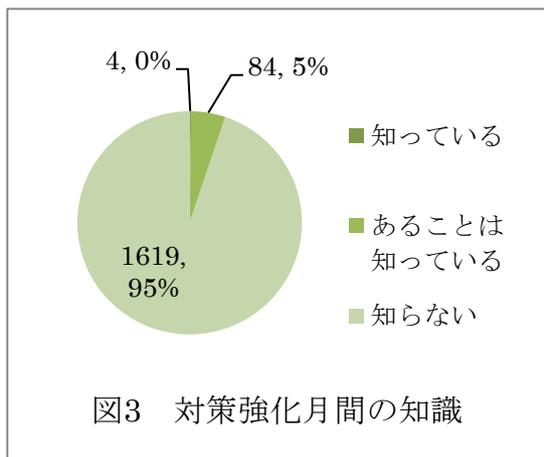
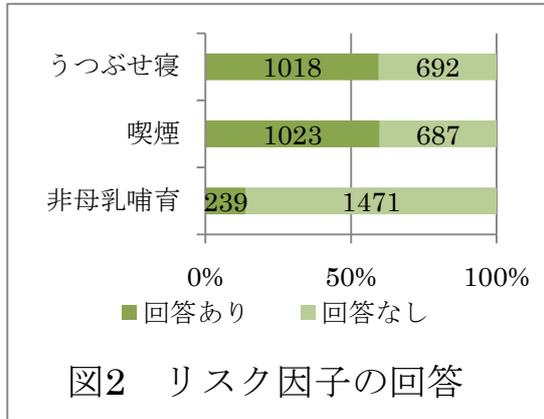
4. 研究成果

質問紙は 4071 部配布し、1843 部を回収、回収率は 45.3%であった。本研究では北海道内における SIDS に対する知識の普及状況を把握することが目的であるため、北海道外に居住し、いわゆる「里帰り分娩」にて北海道内で出産した者を除き、1710 部を有効回答とした（有効回答率 92.8%）。対象者の属性は以下のとおりである。年齢：30 歳未満 641 名（37.5%）、30 歳以上 1069 名（62.5%）。初経産別：初産婦 831 名（48.6%）、経産婦 875 名（51.2%）。

疾患名の知識は、「知っている」が 726 名（42.5%）、「聞いたことがある」が 905 名（52.9%）、「知らない」が 73 名（4.3%）であった（図 1）。



SIDS のリスク因子についての自由回答では、「うつぶせ寝」を回答した者は 1018 名（59.5%）、「喫煙」は 1023 名（59.8%）、「非母乳哺育」は 239 名（14.0%）であった（図 2）。厚生労働省が毎年 11 月に行っている SIDS 対策強化月間については、「知っている」と答えた者は 4 名（0.2%）、「あることは知っているが何月かは知らない」が 84 名（4.9%）、「知らない」が 1619 名（94.7%）であった。



【考察】SIDS の疾患名に対する知識では、全体の 95.7%が、「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答していることから、疾患名自体は生後 1 ヶ月児をもつ母親に広く普及していることが示唆された。一方、SIDS のリスクとなる因子に対する知識を問うたところ、「うつぶせ寝」、「喫煙」で約 6 割、「非母乳哺育」は 14%と、十分普及していない結果が示された。全国の SIDS 発症率は 1997 年当時、出生 10 万対 41.6 であったが、その後、厚生省（現・厚生労働省）が知識普及キャンペーン展開して以降、年々減少し、2009 年には出生 10 万対 13.6 と、3 分の 1 に減少している。そのため SIDS の予防には知識の普及が有効と考える。よって、SIDS 発症率が全国平均を上回る北海道においては、知識の普及が不十分であることがその一因と考えられる。しかし、SIDS の知識と発症率との関係性

について立証した先行研究はないため、本研究結果が必ずしも「全国の SIDS 発症率が減少する中、北海道の発症率は減少していない」という現象の一因とは特定できない。母親の SIDS に対する知識の普及と SIDS 発症率との関連性について言及するには、SIDS 発症率の異なる地域間で知識の普及状況を比較する必要があると考えられる。

上述のとおり、全国の SIDS 発症率が減少した背景として、厚生労働省の知識普及キャンペーンによる効果が大きいものと思われる。その知識普及キャンペーンのひとつとして、毎年 11 月に行っている「SIDS 対策強化月間」が挙げられる。しかし、本研究では対策強化月間が、生後 1 ヶ月児をもつ母親に対し、全く普及していない結果が示された。この対策強化月間については、厚生労働省のウェブサイト上でも公開されているが、日頃から行政機関のウェブサイトを開覧することは一般的であるとは言えず、市町村役場などの行政機関、保健センター、もしくは病院等の医療機関などで掲示・配付されるポスター、パンフレット等での知識の普及が一般的であると考えられる。しかしこの結果から、行政機関や医療機関等での普及啓発活動が効果的に行われていないことが示唆された。

以上より北海道においては、SIDS に対する知識が十分に普及していない現状に対し、母子健康手帳や母親学級等の場の活用を促進し、喫煙率の高さなどといった地域特性を考慮した保健指導を展開していく必要があると思われる。SIDS に対する正しい知識の普及は医療従事者の責務と考える。その責務を遂行するためには、周産期や小児科領域に携わるすべての医療従事者が SIDS に対する母親の知識の現状を理解し、積極的に SIDS の正しい知識の普及に努めていく必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

市川正人、北海道における生後 1 ヶ月児をもつ母親の SIDS に対する知識の実態調査、第 17 回 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会、2011 年 3 月 4 日、ビッグハート出雲(島根県)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

市川 正人 (ICHIKAWA MASATO)

名寄市立大学・保健福祉学部・講師

研究者番号: 20513873